

映像で見る日光いま・むかし

裏見ノ滝

荒沢川の上流にある、日光三名瀑のひとつで高さ約十九メートルの滝。滝を裏側から見たことができたために、この名がつけられました。

江戸時代の俳人松尾芭蕉は、元禄二年(一六八九年)に「おくのほそ道」行脚で日光を訪れ、陰暦四月二日(現在の五月末)に裏見ノ滝を見物し、「暫時は滝に籠るや夏の初」と詠んでいます。



明治期絵葉書・日光市立図書館所蔵

江戸時代の観光案内書「日光山志」(植田孟縉編集)の中にも、裏見ノ滝は、「(中略)ここに荒沢滝不動の石像ありて、脇に籠堂あり。ここは滝の横手ゆえ、正面を望むには、滝の裏を潜り行きて、向こうの方へ廻り見ることなり。(略)滝の裏を潜り通るに患いなし。誠に稀代の飛瀑なり」と紹介されています。

滝の裏側から勇壮な飛瀑を見ることができるといふ趣も加わり、行屋や茶店などができ、大変栄えたところでした。

裏見ノ滝は現在滝口の後退や崩落などにより、危険なため滝の裏の道を通ることはできませんが、新緑の山々に囲まれ静かに往時の雄姿をとどめています。取材の日も俳句の会



現在の裏見ノ滝

の方々が訪れており、静寂な中でペンを走らせてました。

春の交通安全  
市民総ぐるみ運動

4月6日から15日までの10日間「春の交通安全市民総ぐるみ運動」が行われました。初日の6日は市長や日光警察署長、関係団体の方が安川町交番前で交通安全のお守りを配布しました。

世界遺産「日光の社寺」へ  
寄付をいただきました

先日、宇都宮文化センター株式会社から世界遺産「日光の社寺」に対する寄付をいただきました。どうもありがとうございました。



普段から安全運転に心がけましょう。